

# 光る未来に全ツツパ。②

## 『奇跡の大勝…』

## そしてキャバクラで即全溶け』

「……マジで、やるん？」  
目の前に座るミサキは、軽くため息をついていた。場所は松阪駅前、俺らの青春のたまり場、ドン・キホーテのフードコート。

「言うたやん、やるって」

「いや、あれ本気やったん……？」

「マジ本気。だって、これって……アレやる？バズるやつやる？」

「……はあ」

ミサキはポテトを一本つまんで、口に運んだ。なんだその呆れ顔は。俺、今、覚悟決めてんだけど。

「なあ、ホントに『カップル売り』とかやるんか？」

「うん。バズるためには必要やる」

「マジか……」

ミサキの作戦、それは——「スロカップル YouTube」としてチャンネル開設 & 実践配信を始めることだった。

「タイチ、一人でやってもどうせすぐ飽きるやる。そやで、私が横についとったるってだけ」

「……いやいやいや」

「なに？」

「普通さ、女の子が『カップル売りやる』とか言うか？」

「どうせナンパばっかしたるくせに、何ビビっとんの？」

「いや、そりゃ……お前は……その……」

ミサキは、幼馴染。小学生の頃から、ずっと隣にいた女。

恋愛感情なんて、これっぽっちも湧かない。

でも、いざ「カップル演出やるう」とか言われると……なんか、こう……いや、別に、なんてねえわ。

「とりあえず、今日撮るから」

「は？」

「準備してるし。ほら」

ミサキが差し出したのは、小型三脚と、スマホ用ピンマイクセット。

「……ガチャヤン」

「うん。もう、止めやんから」

やってやるうじゃねえか。

これが、俺の——全ツツパ YouTube デビュー戦や。舞台は、松阪の名物ホール「パワースマイル松阪店」。ミサキが選んだのは、朝から満台の人気機種「スマスロ北斗の拳」。

「え、北斗……？俺、番長派なんやけど」

「カップルなら並び打ちしやんと。それに、北斗の方が今、流行っとるし」

ミサキ、恐ろしいほどにガチ勢ムーブ。

「カメラ、セット完了って……よし、撮るよ」

「え、今から？」

「始めましてー！スロカップルのタイチと、ミサキでーす！」

……ミサキ、テンション高いな。思ってた五倍くらいノリノリやないか。

「今日は松阪店さんで、スマスロ北斗の拳、並び打ちしまーす！」

「お、おう……よろしくお願ひしまーす」

カメラに向かってペコペコする俺。完全に

初心者 YouTube ムーブ、ダサすぎる。——だが、俺は、この日、とんでもない『奇跡』を起こした。

朝イチ、いきなりのバトルボーナナス。しかも、北斗揃いからのレインボーオーラ。

「……嘘やろ？」

「タイチ、やばない？」

カメラ回ってる中、俺の台だけ爆裂。そして、来た——「無想転生バトル」突入！

「マジで引いたアアアア！」

ミサキ、横でガチ拍手。気付けば、3000枚オーバー。

「これ、マジバズるわ……！」

脳汁、ドバドバ。台も、女も、カメラも、全部俺の味方に思えてきた。実践終了。結果——+64,000円。

「おつかれさまでした！タイチ、大勝利！」

カメラに向かって、「最高のデビュー戦でした！」とか言っちゃってる俺。

だが——問題は、この後やった。夜、松阪駅前のキャバクラ「CLUB百合」。

「いやあ、勝ったからには、なあ？」

ポケットに入った六万四千円を握りしめ、俺は、人生二度目のキャバクラへ突撃して

いた。

「お兄さん、めっちゃ勝ったんすねー！」

「やる？俺、スロカップル YouTube

やっとなるんやけど、初戦で勝っちゃってさあ」

「へえー、すごーい」

横で笑ってくれる、金髪ドレスのキャバ嬢・アヤナちゃん。酒も進み、気分は完全に「俺、売れっ子 YouTuber」。

「いやあ、女もスロも、俺に惚れちゃうよねー！」

「……ふーん」

——だが、気付けば、テーブルの会計ボタンが連打されていた。

「こちら、お会計、64,000円になりました」

「……え？」

まさかの、ピツタリ全溶け。

「マジかよ……全部、消えた……」

帰り際、アヤナちゃんに言われた一言が、俺の心に突き刺さった。

「調子乗ってる男って、だいたいすぐ消えるよね」

駅前のロータリーで、俺は一人、缶コーヒーを開けた。夜風が冷たい。

でも、俺は負けねえ。

だって、

「光る未来に、全ツツパ」だから。

次号に続く……

